

東光原

熊本大学附属図書館報

Kumamoto University Library Bulletin, No.18, October. 1997

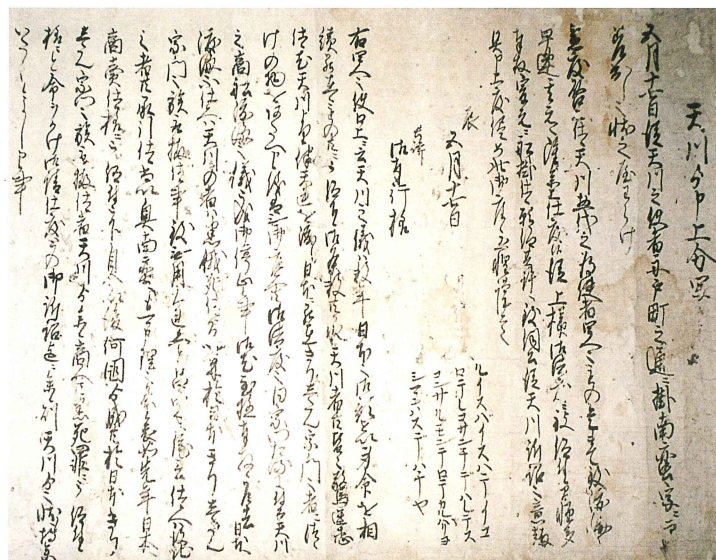
● 伊良湖岬の君に

熊本大学附属図書館架蔵 特殊文庫の紹介 (二)

● 松井家文書の古文書について

● 電子図書館事始め (Ⅱ)

-NACSIS-ELS : 国内学協会誌の電子サービス-



天川より申上分写 (マカオからの願書翻訳写し)

1639年(寛永16)鎖国令で長崎への来航を禁止されたポルトガルのマカオ(天川)総督は翌年5月ルイス・バチェコほか3名の使者を送って、以後キリシタン伝道しないと長崎奉行に誓約し、貿易の再開を願い出たが許されなかった。この巻物はこの事件についての、南蛮字(ポルトガル語)の願書、関連の書簡類の翻訳写しである。(松井家文書)

伊良湖岬の君に

木下尚子

「大正十年二月十二日夜、久留米市中学明善校にて談話。この夕大いに雪ふる」という添え書きをもって始まる柳田国男の講演記録がある。この時柳田は47歳、宮仕えを辞し長年の願望であった琉球列島への三か月に及ぶ旅行からの帰路ということもあり、話の内容もいきおい南島と日本の古代における繋がりを説こうとするものであった。

暗く寒々としていたであろう明善校の講堂で柳田が熱弁をふるったのは、植物のピロウ（またはクバ、蒲葵）の由来であった。ピロウは高さ8～25mになるヤシ科の木で、九州や四国の南部から琉球列島などに育つ。葉は天狗の羽うちわのように八方に広がって直径1mほど、柄は断面三角形で長さが約1.5mになる。この葉は繊維質に富み、乾燥するとわずかに黄土色がかつた美しい白色になる。ピロウの育つ地域の人々は、好んでこれで笠、団扇、蓑を作り、釣瓶にし、屋根をふき、船の帆を編んでいた。クバガサは今でも奄美や沖

縄では便利な日よけである。ピロウの幹も柱や臼、指物として利用された。実を食用にする例は少ないものの、南島人にとって総じてピロウは利用価値の高い植物であった。

奄美や沖縄で、本土の神社に相当する聖域をウタキ（オタキ、御嶽）とよぶが、ここにはたいてい数本のピロウが亭々と聳えている。琉球列島では神はこの高いピロウを伝って降臨すると考えられ、だからピロウは神聖な木だとされている。国・集落の神祭りをする時、これを司る神女が物忌にこもる小屋の屋根は必ずピロウでふき、祭祀に用いる扇、腰蓑、敷物もすべてピロウで作るという。ピロウは非日常の世界でも、特別の意味をもっていたのである。

ところで、このピロウは奈良～平安の古代、すでに宮中の種々の儀式に多用され、外国への進物となり、はては上級貴族の牛車（檳榔毛の車）を覆う材料となっている。古い記録は貴人の仮宮をピロウでふいたことを伝え、天皇の食事を調理する竈の火を扇ぎ、これをさますための扇もピロウ製でなければならなかったという。伊勢の神宮の神事にもピロウの笠が使われたという。しかしピロウの育たない都や伊勢の人々が、いったいどんな考えでこれほどピロウにこだわったのか。柳田の疑問はこの一点にあった。

さて、古い記録は、ピロウが大隅、伊予、筑前大宰府から都に届いたことを語っている。柳田は『風土記』の物産の記録を探し、さらに薩摩、日向、土佐の沿岸にピロウシマの名をのこす少なからぬ島のあることに注目して、懸命にこれから古代のピロウ重用の習俗の脈絡をさぐろうとしている。柳田は五島、瀬戸内海東部、朝鮮半島南岸の多島海中、なんと肥後八代の西3里にもかつてピロウシマのあったことを執念深く探しだしている。

彼の得た結論はこうである。「ほんらい南に故郷をもつ我々」はピロウを尊ぶ習俗を忘れがたかったので、「コバ（ピロウのこと一筆者）なき国に移り住んで何世紀を経た後世まで、あらゆる便宜によって遠くその葉を求め、これを愛用した貴人の多かった」、九州・西日本各地にみられるピロウの茂りはおそらくは人為によるものである、と。



こう述べる柳田の発想の根底には、嵐の次の日に梢を離れて久しからざる白く生々とした椰子の実が、伊良湖岬の荒磯に打ち寄せられているのを見て、南の島を恋しく思った若き日の詩人的直感があつた。事実、これに突き動かされるように、後年彼は日本人の起源を琉球列島、さらに南方に求めていく。

現在、柳田の提起したピロウの問題は、たぶんまだ解決していない。ただ柳田が比較した日本の古代と琉球の近世の間に、〈神は海のかなたから来る〉とする水平的思考に、〈神は天空から降臨する〉とする垂直的思考の加わる一時期のあることが指摘され、私の専攻する考古学では、今を去る6500年前から古代まで、北から南に向かって流れる断えざる文化の潮流のあったことがわかってきた。

おそらく南島のピロウの効用は、はるか先史の時から古代までの間に、くまなく南九州につたえられていたであろう。そして、いずれの時期かに、神は高くまっ

すぐな木をつたって天空から地上に降りてくるという本土的思想がついに琉球人にも受け入れられ、ならばピロウこそが神の木にほかならず、神の木で整えられた道具一式こそ最も尊いとする考えが、あるいは宗教者によっていつのころか都や伊勢にはいったのではないだろうか。こうしたモノと観念の連鎖的置き換えは、琉球列島が国家形成に胎動し始める平安時代に起こったのではないかと思う、何故ならばね……とこんな話を、できれば流れよる椰子の実に感動した大学2年の柳田国男に聴いてもらいたいなあ、と秋の夜長にはしきりに思うのである。

ちなみに講演録は「阿^あ遅^じ摩^ま佐^さの島」(阿摩佐遠はピロウの古名)としてこの旅行記の最終に納められ、のちに『海南小記』として大岡山書店から刊行された。熊本大学正門には、堂々たるピロウが、秋なお青く繁っている。

(きのした なおこ 文学部助教授 考古学)

熊本大学附属図書館架蔵 特殊文庫の紹介(二)

松井家文書の古文書について

松本 寿三郎

本館に架蔵する松井家文書は、熊本藩の筆頭家老で八代城主であった松井家に伝来した古文書の一部である。周知の如く松井家はかつては細川氏とともに足利幕府に仕えたが、初代松井康之は細川氏に客分として身を寄せ、以後細川氏の重臣として活躍した家であり、慶長6年以來筆頭家老として2万5000石木付(杵築)城主となった。元和の一国一城令で城主の地位を失ったが、細川氏の熊本転封後3万石に加増、松井興長は正保3年細川忠興の隠居城であった八代城に移り、以來幕末までその地位を保った。

松井家文書は戦国時代末の康之時代から幕末までの300年の文書群である。松井家では「財団法人松井文庫」として主要な什器・武具・美術品・古文書を所蔵しているが、本学附属図書館に架蔵する「松井家文書」は財団法人化される以前に熊本大学に譲渡・寄贈されたものであった。その経緯の詳細は明らかでないが、記録によれば受入れは2度になっており、最初は

昭和32年3月30日になされ、目録では特殊古写本類・伝習堂旧蔵図書・戊亥御蔵所蔵図書・古日記古文書類・文書類の5種、数量でいえば、特殊古写本38冊、和漢書5550冊、記録類2183冊、文書29450通に分類されている。2度目は昭和38年10月18日付で、類題倭歌集以下和漢書280種1520冊である。合わせて9291冊・29450通である。このうちには特殊古写本や伝習堂旧蔵図書・和漢書など文学関係にも取り上げるべき図書があるに違いないが、私はそちらは全く無知なので今回はもっぱら古文書についてのみ触れることにする。

松井家文書はごくおおまかに、1)豊前時代の藩政・領内支配にかかわるもの、2)天草島原の乱にかかわるもの、3)松井家の知行地にかかわるもの、4)松井家の家系にかかわるもの、5)松井家の家臣にかかわるもの、6)日記類に大別できる。時代的に見れば2)以下は肥後熊本領に属するものである。それぞれについて紹介しよう。

1) 慶長6年細川氏が豊前・豊後に封ぜられ、松井氏は木付城をあずけられたが、その時の知行地を書き上げた「豊後国速見郡之内木付城付知行分目録」をはじめとして、寛永9年肥後に移るまでの主として速見郡関係の土地・人畜に関しての文書が多い。中でも慶長14・16年の由布院の村々家人畜帳類は『小倉藩人畜改帳一』に収録、慶長期の村落構造をうかがい知る史料として著名である。土地関係では連年の新地・永荒新地開帳の類、人畜関係では走り百姓の記録、慶長19年のキリシタン大弾圧期の村落史料、地方支配に関しては細川氏領特有の手永制度の成立にかかわる史料などを含んでいる。永青文庫の紹介でも触れたが、細川家文書にはこの時期の原文書が欠落しているので、松井家文書のこの時期の原文書は細川氏の小倉・熊本藩政史研究にとって欠かすことのできない史料となっている。

2) 松井家文書で有馬一件・有馬御陣・有馬働・有馬城乗といわれるものは、普通島原の乱といわれるものである。肥前国有馬地方で起きた島原の乱には熊本藩から2万8600人が出陣したが、長岡佐渡(松井興長)は左備の長であった。有馬陣の展開に関する文書も少なくないが、関係文書の大部分は藩士一人一人がそれぞれに書き出した差出(軍忠状)である。戦闘の場でお互いに言葉を交わし戦功を確認し合いアリバイを証明するものであり、働きの差出と証人の差出とで一对をなす、莫大な原文書はこの戦で功名をあげようとする武士たちの切ない願いを伝えているようである。

3) 肥後での松井氏の知行地ははじめ玉名郡ほかに与えられたかが、正保3年八代城主に任ぜられて八代郡ほかに替えられた。八代城の維持・八代町の支配・知行地の村々の支配・干拓などの史料は明治7・8年間までのものがある。まとまったものとして『先例略記』・『御町会所旧記抜書』(『八代市史史料編』として刊行)のほか、寺社方・勘定方・選挙方・御咎筋之例など役所ごとの記録も少なくない。村方関係では明治初年の村々開田帳が目につく。

4) 初代康之以来歴代当主の事跡が含まれるのはいうまでもないが、松井氏が秀吉以来歴代の將軍から与えられている山城国相楽郡神童寺村の知行地の土地人民の記録は松井氏の家格を物語るものとして注目に値するものである。このほか一門の婚礼関係がある。

5) 家臣の「御知行割下しらべ」をはじめ、知行地に関する史料「御知行取旧知・新知并御擬作取名籍」や御奉公帳・座配帳などのほか、文武稽古入門、昇進についての窺書など家臣の身分についての史料がある。

6) 延宝2年(1674)から明治2年(1869)に至る日記のほか、江戸日記、御献立日記、江戸参府日記など208冊がある。近世のほとんどの時期をカバーできるものである。

松井家文書のうち記録の分については「松井家文書目録」として既に目録化されており、前述のような理由でひんぱんに利用されているのであるが、文書についてはまだ1万通程しか目録化されていない。主として近世初期に属すると思われるものから「松井家一紙文書目録」として整理され目録化しているものの、あまりにも膨大であり整理が遅れているのである。

(まつもと すみお 文学部教授 国史学)

オンライン図書購入申込を開始

附属図書館では、ホームページ上での図書購入申込の受付を開始しました。このシステムはK U I Cに接続され、WWWブラウザで熊本大学附属図書館ホームページを見る事ができるパソコンが必要です。また、利用資格については、校費による図書購入を対象（私費は受付ません。）としていますので、校費使用が可能な方に限ります。

利用方法

<ユーザー登録>

- ①熊本大学附属図書館ホームページへ任意のWWWブラウザでアクセスして、オンライン図書購入申込メニューをクリックします。
- ②オンライン図書購入申込メニュー（A）の画面が表示されますので、初めてご利用になる方は図書購入申込のユーザー登録をクリックします。
- ③所属の選択や姓・名、メールアドレス等を順次システムが尋ねますので、入力して「次へ」のボタンを順次クリックしてください。
- ④最終確認（B）の画面で、「次へ」のボタンをクリックするとユーザー登録を行います。
- ⑤しばらくすると、登録完了の画面（C）が表示されます。
- ⑥ここでご自分の電子メールを確認してください。このサービスのユーザー名と初期パスワードを示したメールが図書館から届いているはずですが、以後このサービスを利用する場合はこのユーザー名とパスワードを使用してください。

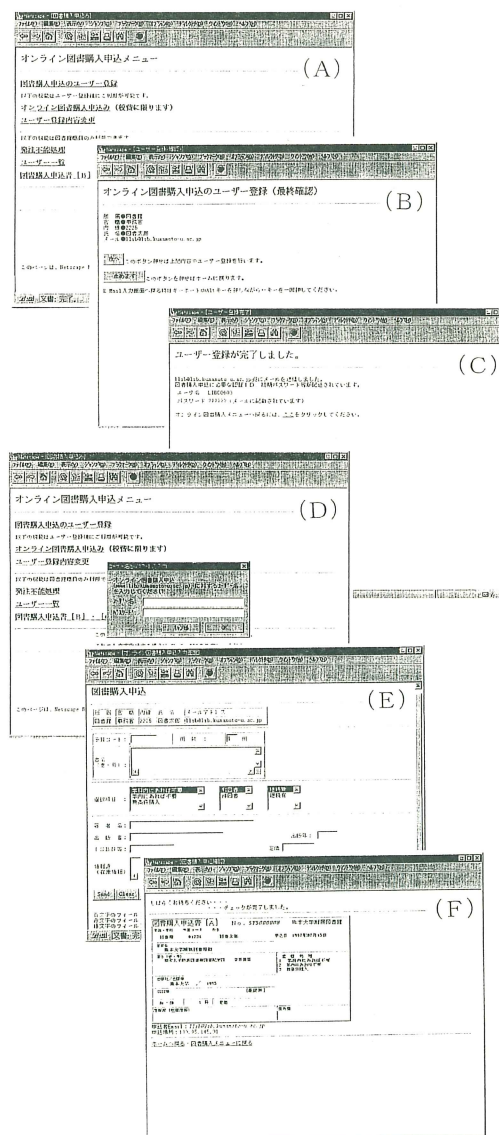
<購入申込>

- ①熊本大学附属図書館ホームページへ任意のWWWブラウザでアクセスして、オンライン図書購入申込メニューをクリックします。
- ②オンライン図書購入申込メニュー（A）の画面が表示されますので、オンライン図書購入申込をクリックします。
- ※パスワードを変更する場合はユーザー登録内容変更をクリックしてください。
- ③ユーザー名とパスワードを入力するウィンドウ（D）が表示されますので、取得したユーザー名とパスワードをフィールド内に入力して「OK」をクリックしてください。
- ④購入申込入力画面（E）が表示されますので、予算コードと購入したい図書の書誌情報を入力して、「送信」ボタンをクリックしてください。
- ⑤確認画面（F）が表示されて、申込みが完了します。

引き続き申込まれる場合は申込画面へをクリックしてください。

<問い合わせ>

- ・ 図書購入に関すること
附属図書館情報管理課 図書情報係（内線2221）
- ・ システムに関すること
附属図書館情報管理課 電子情報係（内線2224）
(Email:llib@lib.kumamoto-u.ac.jp)



図書館諸統計（平成8年度）

I 受入統計

① 年間受入

		中央図書館			医学部分館			薬学部分館			計
		購入	寄贈・その他	小計	購入	寄贈・その他	小計	購入	寄贈・その他	小計	
図書	和漢書	8,276	1,580	9,856	254	450	704	67	1	68	10,628
	洋書	2,709	1,855	4,564	207	1,773	1,980	48	452	500	7,044
	計	10,985	3,435	14,420	461	2,223	2,684	115	453	568	17,672
雑誌	日本語	1,819	2,859	4,678	232	510	742	43	83	126	5,546
	外国語	1,541	333	1,874	568	67	635	82	3	85	2,594
	計	3,360	3,192	6,552	800	577	1,377	125	86	211	8,140
新聞	日本語	10	16	26	4	4	8	6	3	9	43
	外国語	3	5	8	1	0	1	0	0	0	9
	計	13	21	34	5	4	9	6	3	9	52

② 蔵書

		中央図書館	医学部分館	薬学部分館	計
図書	和漢書	663,478	68,763	14,837	747,078
	洋書	317,403	93,700	18,077	429,180
	計	980,881	162,463	32,914	1,176,258
雑誌	日本語	9,695	1,695	272	11,662
	外国語	3,418	1,823	268	5,509
	計	13,113	3,518	540	17,171

II 利用統計

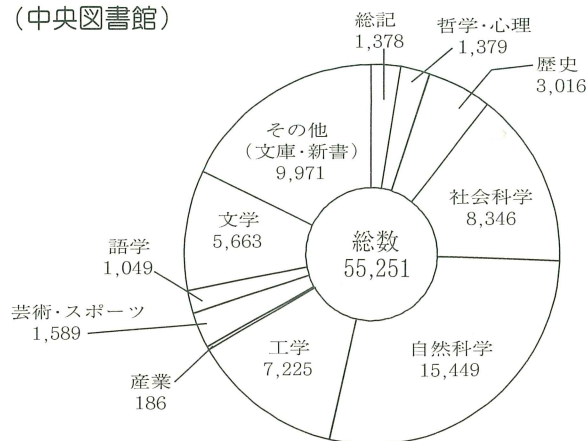
① 開館日数・入館者数・貸出冊数

	中央図書館	医学部分館	薬学部分館	計
開館日数	315	333	327	975
時間外開館日数(内数)	251	271	269	791
入館者数	455,555	140,965	89,071	685,591
時間外入館者数(内数)	105,216	40,438	24,506	170,160
貸出冊数	55,251	8,410	1,560	65,221

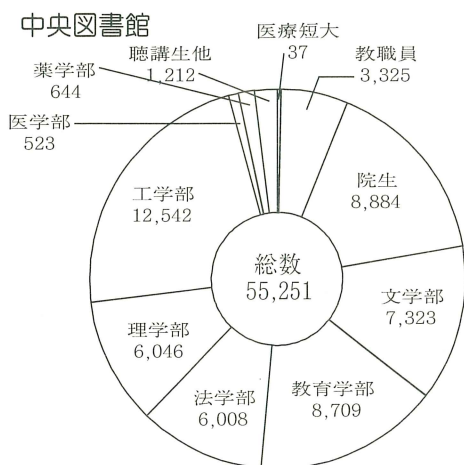
② 身分別貸出冊数

	中央図書館	医学部分館	薬学部分館	計
学部生	41,830	2,383	940	45,153
院生	8,884	1,247	484	10,615
その他学生	1,212	505	9	1,726
教職員	3,325	4,275	127	7,727
計	55,251	8,410	1,560	65,221

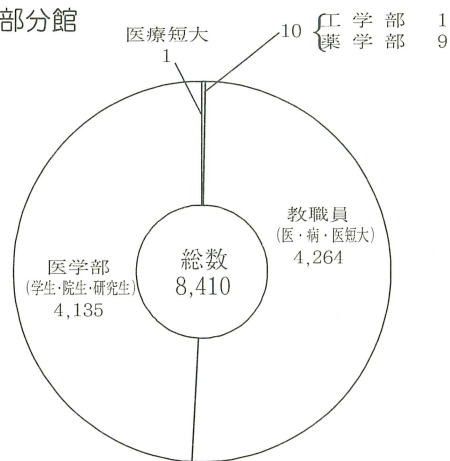
③ 分野別貸出冊数 (中央図書館)



④ 学部別貸出冊数 (中央図書館、医学部分館)



医学部分館



⑤ 文献複写

	中央図書館	医学部分館	薬学部分館	計
学外依頼	2,924	2,677	1,056	6,657
学外受付	1,656	5,351	1,014	8,021
学内処理	3,744	250	399	4,393

⑥ 相互貸借

	中央図書館	医学部分館	薬学部分館	計
依頼	420	3	4	427
受付	246	0	4	250

⑦ 特殊文庫 (中央図書館)

	松井文庫	北岡文庫	その他
利用者数	4	220	9
利用冊数	107	5,226	349

⑧ 視聴覚資料・CD-ROM（中央図書館）

	視聴覚資料 ※1	CD-ROM ※2
利 用 件 数	1,082	189

※1 ビデオ、LD

※2 スタンドアロンのみ。

Ⅲ 年次推移

① 開館日数・入館者数・貸出冊数

	中央図書館			医学部分館			薬学部分館		
	開館日数	入館者数	貸出冊数※1	開館日数	入館者数	貸出冊数※2	開館日数	入館者数	貸出冊数※1
平成4年度	256	351,976	52,441	283	106,113	10,882	279	72,725	1,030
平成5年度	265	365,052	57,669	276	92,318	8,943	277	90,835	976
平成6年度	265	381,238	56,591	279	105,421	9,516	276	74,807	1,078
平成7年度	267	405,769	58,851	279	118,882	9,278	276	86,945	1,473
平成8年度	315	455,555	55,251	333	140,965	8,410	327	89,071	1,560

※1 図書のみ ※2 図書・雑誌

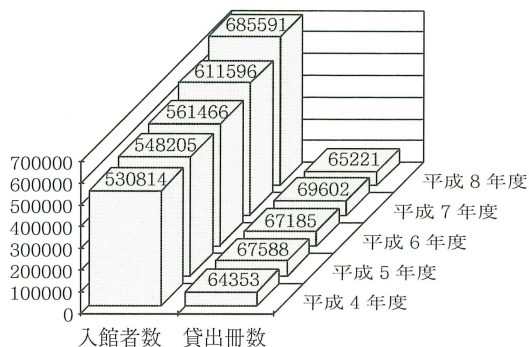
② 文献複写

	中央図書館			医学部分館			薬学部分館		
	学外依頼	学外受付	学内処理	学外依頼	学外受付	学内処理	学外依頼	学外受付	学内処理
平成4年度	3,603	2,178	2,002	916	4,426	244	299	581	440
平成5年度	2,996	2,340	4,685	1,724	5,109	263	420	1,025	345
平成6年度	3,473	1,597	4,087	2,137	5,117	277	638	1,152	257
平成7年度	2,979	1,798	4,121	2,557	5,168	245	808	1,312	484
平成8年度	2,924	1,656	3,744	2,677	5,351	250	1,056	1,014	399

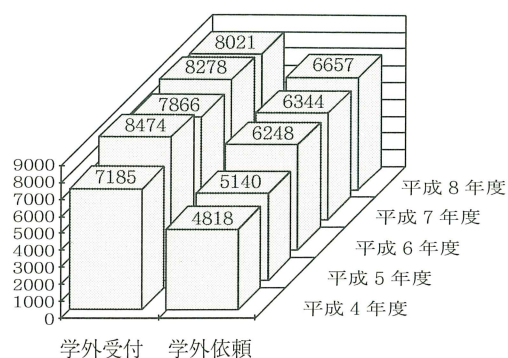
③ 相互貸借

	中央図書館		医学部分館		薬学部分館	
	依 頼	受 付	依 頼	受 付	依 頼	受 付
平成4年度	319	362	0	8	0	2
平成5年度	359	395	5	5	3	4
平成6年度	379	399	8	12	1	1
平成7年度	448	485	5	4	1	0
平成8年度	420	246	3	0	4	4

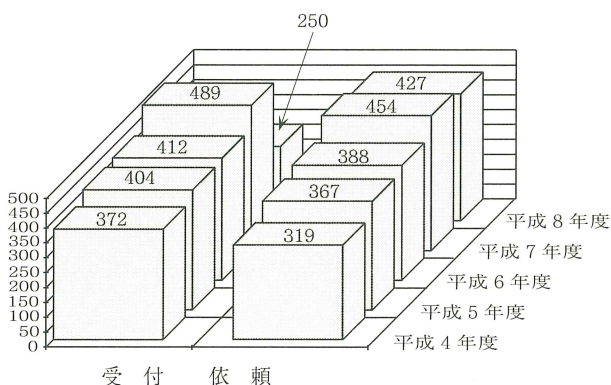
入館者数・貸出冊数（全館）



文献複写（全館）



相互貸借（全館）



目録システムとILLシステムの地域講習会を開催

附属図書館では、学術情報センターと共催で目録システム講習会とILLシステム講習会を開催しました。この講習会は、全国約500大学等で共同分担して目録業務の効率的処理を行うために利用している目録システムと、他大学等から複写物等を迅速に取り寄せて研究者等に提供するために利用しているILL（Inter-Library Loan:図書館間相互貸借）システムの操作法を習熟することを目的に実施しているもので、学術情報センター以外に全国の大学等で地域講習会として開催されているものです。

本学でも平成3年度（ILLシステム講習会については平成7年度）から毎年開催していますが、今年は、目録システム講習会を6月25日～27日に、ILLシステムを6月23日～24日に実施し、本学職員以外にも県下、福岡、佐賀、長崎、大分、鹿児島等の大学等の図書館員20名の受講がありました。

また、この講習会は、単にシステムの操作方法を習

得するだけでなく、全国の大学等で共同分担入力しながらデータベースを構築することの意義や、学内の教官・学生に限らず全国あるいは海外の図書館利用者に対して迅速に情報提供するための図書館間の協力事業の重要性を再認識する機会にもなっています。

（電子情報係）



電子図書館事始め II

—NACSIS—ELS：国内学協会誌の電子サービス—

我が国学協会誌の電子ジャーナル化

前号 (No.17) では、6月からサービス開始したEESをご紹介しますが、EESは著作権保有者である出版者自身が発行する電子ジャーナルのひとつで、欧米では学協会が自ら雑誌の電子化を競って進めています。

そこで今回は、我が国における電子ジャーナルの事例として、文部省学術情報センターがこの4月からサービスを開始した電子図書館サービス (NACSIS-ELS) を紹介します。

学術雑誌の電子化のための協力事業

NACSIS-ELSは「国内の学協会が発行する学術雑誌を電子化してコンピュータに格納し、ネットワークを介して広く利用者」に提供するサービスです。また、学協会、学術情報センター、大学等の学術関係機関の間で協力しながら我が国の学術雑誌の電子化を促進させることを目的とする事業とも言えます。

現在 (8月時点)、利用できる学会誌等は23学会分45タイトルですが、今後、参加学会が増加し収録誌数も

増加していくものと期待されています。サービスの概要等の詳しい情報は以下のNACSIS-ELSのホームページにありますので参照して下さい。

<http://www.nacsis.ac.jp/els/els-j.html>

平成9年度は利用料金無料

サービス開始1年目の今年度は、利用料金は無料となっていますが、それは、電子ジャーナルが学協会や大学図書館、研究者等に及ぼす影響が予測できないため合理的な料金設定が困難だからと推察できます。今後、全国の大学等における利用状況を踏まえ、著作権者である各学協会等の関係機関で協議を重ねながら次第に正式サービスの骨格が組みあがっていくものと予想されます。

NACSIS-ELSの利用方法

NACSIS-ELSはUNIXワークステーション、パソコンいづれでも利用できますが、専用のクライアント・ソフトウェアが必要です。上記のNACSIS-ELSのホーム

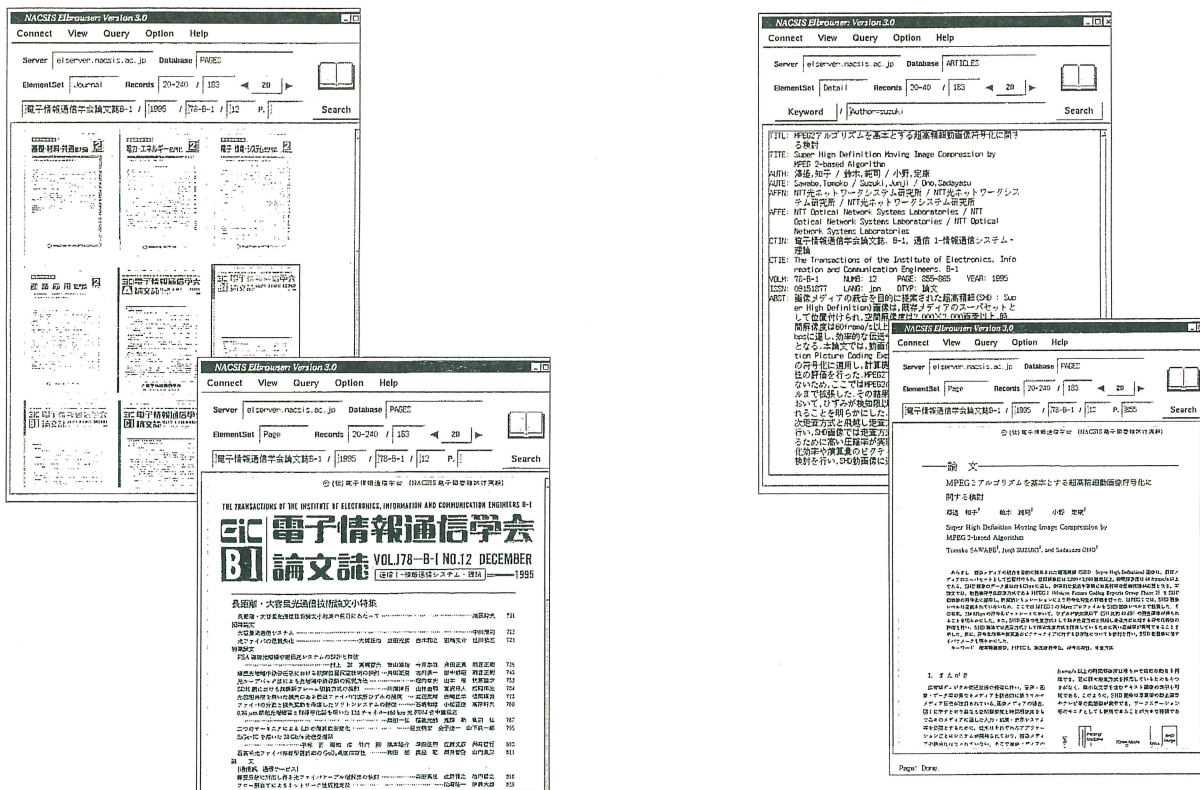


図1 NACSIS-ELSの画面例 (UNIX版)

ページから無料でインストールすることができます。

検索方法には、読みたい雑誌を選択し目次から特定の論文のページを読んでいくブラウジングと、特定のキーワードで検索した後で当該論文のページを読むサーチの方法とがあります(図1)。

利用申請は図書館を通じて

NACSIS-ELSの利用に当たっては、事前に利用申請が必要です。上記ホームページに詳しい情報がありますので参照して下さい。申請書(図2)、電子メール、WWWフォームの各種の申請方式がありますが、いずれの場合でも所属機関の代表者の認証が必要です。今年度については、附属図書館で認証をすることもできますので、NACSIS-ELSの利用を希望される方は附属図書館までお申し出下さい。

なお、附属図書館ではNACSIS-ELSが利用できる端末を設置する予定ですのでご利用下さい。

(電子情報係)

別紙様式1 電子図書館サービス利用者登録申請書
平成 年 月 日

学術情報センター所長 殿

貴センターの電子図書館システムの利用について、平成9年度学術情報センターの電子図書館サービスの利用要項を遵守し、次のとおり申請します。

①必須項目

申請区分	<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 変更	<input type="checkbox"/> 取消
利用者番号	新規の場合記入不要		
フリガナ	職名		
氏名			
所属機関名			
所属部科名			
連絡先	〒		
電話			FAX
電子メールアドレス			
研究分野コード	情報検索サービス利用者番号		

②申請者が所属する学協会

所属学協会名	会員番号

③新規利用者記入項目(但し、取情報検索サービス利用者は記入不要)
 利用者が(□当該機関の教職員 □当学会の正会員)であることを証明します。
 代表者職名
 代表者氏名
 公印

図2 NACSIS-ELS申請書

雑誌記事索引のネットワーク利用開始予定

9月から、『雑誌記事索引』(国立国会図書館編)のネットワークサービスを開始する予定です。準備が整い次第、附属図書館のホームページからアクセスできるようになりますので、是非ご利用下さい。

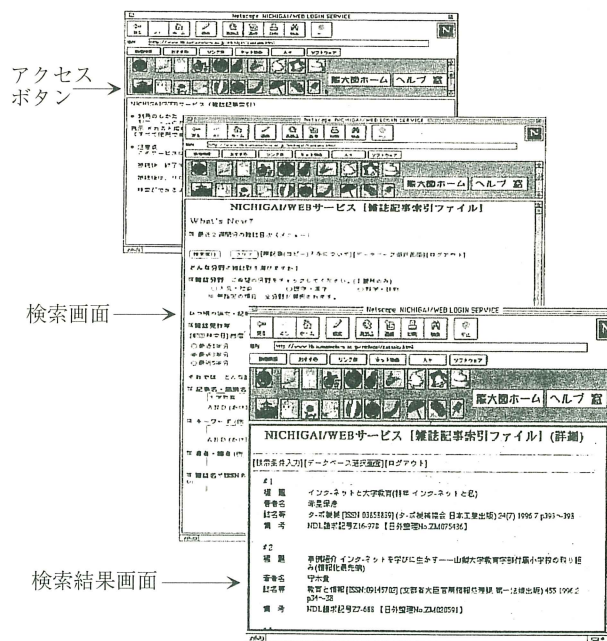
『雑誌記事索引』(略称:雑索)は、国立国会図書館で収集する和雑誌のうち学術雑誌を中心とする約5,500誌に掲載された論文のタイトル、著者、雑誌名、巻号頁等の基本的な書誌事項を収録するもので、人文・社会・自然科学の全ての分野を網羅し、『科学技術文献速報』と並ぶ我が国最大の索引のひとつとして大学図書館にとって必須の資料となっていました。

1996年、半世紀近く続いた『雑索』の冊子体刊行の歴史に終止符が打たれ以後電子的媒体でのみ提供される事となり、附属図書館として新たな対応が求められていましたが、このたびNICHIGAI/WEBサービスを導入し本学関係者は誰でも自由に利用できるようにいたします。

接続方法は、附属図書館のホームページに接続し、メニューから「情報検索」→「雑誌記事索引」と選択して下さい。次の画面では、カラフルなボタンが表示されますので、お好みのボタンをクリックして下さい。

しばらくしてWelcome画面になればOKです。その他の情報は、追って附属図書館のホームページでご案内いたします。

(電子情報係)



カラフルなアクセスボタンのある画面
(実際のサービスでは異なる場合があります)

本学教官寄贈著書紹介

上西川原 章 名誉教授

アブデラ人物語

クリストフ・マルティーン・ヴィーラント著

上西川原章・瀬戸洋訳

高科書店1997. 4

櫻井 陽子 助教授(教・国文学)

平家物語 The Tale of HEIKE

CD-ROM版

櫻井陽子監修

富士通SSL

お知らせ

『第14回熊本大学附属図書館特殊資料展並びに講演会』を、下記の要領で開催します。

又、休日開館を行っていますので、熊粋祭のオープンハウス企画としてもご利用下さい。

記

会 期：平成9年11月1日(土)～11月3日(月)

時 間：10：00～16：00

会 場：附属図書館自由閲覧室（B1F）

テ ー マ：阿蘇家文書に見る肥後の南北朝

出品資料：国指定重要文化財「阿蘇家文書」より

「北条時政下文」「後醍醐天皇綸旨」

「河尻幸俊願文」「高師直書状」「将

軍足利尊氏御判御教書」他 32点

講 演 会：演題 阿蘇家文書のおもしろさ

講師 熊本大学文学部教授工藤敬一氏

日時 平成9年11月1日(土) 13:30～15:00

会場 附属図書館会議室（2F）

編集後記： 日一日と、秋が深まっていくのが感じられる今日この頃です。学生たちにとっては、試験も終わり大学祭や運動会を控え、一年中で最も充実した時期ではないでしょうか。でも、卒業を控えた学生にはまだまだそんな余裕はないかも知れませんね。

これから、だんだんと寒さが増してくると思います。今のうちにしっかりと体を鍛え、栄養を蓄えて、熊本の寒い冬を乗り越えたいと思います。

日誌（平成9. 5. 1～8. 31）

- 5. 6 古典籍研修会
- 5.20 古典籍研修会
- 5.27 国立大学附属図書館事務部課長会議（於東京）
〃 熊本県図書館連絡協議会理事会（県立図書館）
- 5.30 附属図書館係長会議
- 6. 3 古典籍研修会
- 6. 4 図書館委員会
- 6.10 電子ジャーナル説明会（学長室）
- 6.13 DIALOG講演会&セミナー（中央館）
- 6.17 古典籍研修会
- 6.23 ILLシステム地域講習会開催
～24
- 6.25 目録システム地域講習会開催
～27
- 6.25 国立大学図書館協議会総会（於京都）
～26
- 7. 1 古典籍研修会
- 8. 4 熊本県大学図書館協議会実務者研修会
（九州東海大学）
- 8.27 平成9年度図書館等職員著作権実務講習会
～29（於広島）
- 8.29 九州地区医学図書館協議会（於佐賀）

熊本大学附属図書館報「東光原」（とうこうげん）*

第18号（Vol.6 No.3）平成9年10月発行

発行所 熊本大学附属図書館

〒860 熊本市黒髪 2-40-1

TEL 096(342)2273 FAX 096(345)9087

HP <http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp>

編 集 山根文夫・飯田典子・成田和則

中尾康朗・伊波ひとみ・野元剛二

※ 現在の中央館の敷地一帯が、旧制第五高等学校時代東光原と称する運動場であったことに由来する。